

# 多文化共生社会づくり推進事業報告書

## 1 委託業務名・概要

(1) 業務名 Aula de desafio

(2) 概要（事業の要約・事業の目的など）

西尾市内の公立学校に通う外国人児童とその保護者を対象に、子どもの日本語能力の向上と教科学習の支援、保護者の日本語能力調査・懇談会、生活支援（防災教育活動）を目的とした各種事業を行った。

## 2 実施事業について

### 実施時期

(1) 平成19年7月1日（日）～平成20年2月29日（金）

(2) 実施地域：愛知県西尾市

(3) 事業の具体的内容

夏休み教室@西尾市立鶴城小学校（7/23,24,25,26,27,30,31,8/1,2,3）

計10回、1回あたり午前2時間、参加者延べ147名

夏休み教室@西尾市立西野町小学校（7/23,24,25,26,27,30,31,8/1,2,3）

計10回、1回あたり午後2時間、参加者延べ161名

鶴城小学校の和室と西野町小学校のランチルームを利用して、希望する外国籍児童を対象に夏休みの10日間、夏休みの宿題を支援する活動を実施した。西尾市内の教員、ブラジル人教育関係者、日本語教育関係者、小学生の子どもを持つ主婦、大学関係者、大学生などが子どもに寄り添い、宿題に取り組んだ。毎回1年生から6年生までの子どもたちが夏休みの日誌や工作、作文などを持ち込んで学習した。

加えて、外国籍の子どもたちの保護者も時々参加し、スタッフと一緒に子どもの学習をみたり、宿題や学校についてスタッフに相談した。

### 平日放課後教室

（10/4,11,18,25,11/1,8,15,22,29,12/6,13,1/17,24,31,2/7,14,21,28）

計18回、1回あたり2時間、参加者延べ311名

西野町小学校のランチルームを利用して、希望する外国籍児童の主に1年生から3年生を対象に、毎週木曜日の授業後、宿題の支援活動を実施した。ブラジル人教育関係者、日本語教育関係者、小学生の子どもを持つ主婦、大学関係者、大学生らと共に子どもたちの宿題に取り組んだ。毎回15人前後の子どもがランチルームに通い、終了時間になると地域別に分かれて下校したり、保護者と下校した。学童保育に通っている者も、学童保育と連携し、木曜日だけはまず平日放課後教室に通い、宿題を終わらせてから学童保育へ通った。

### 週末教室

（7/7,21,8/4,9/1,15,10/6,27,11/17,12/1,15,22,1/5,19,2/2,16）

計15回、1回あたり1.5時間、参加者延べ81名

外国籍児童が多く暮らす県営緑町住宅周辺地域の子どもを対象に、県営緑町住宅の集会所にて日本語や教科学習の支援活動を実施した。

保護者・教員との懇談会（8/9）

計1回、2時間、参加者延べ8名

鶴城小学校にて、外国籍児童の保護者、教員、ブラジル人教育関係者、愛知県語学相談員らが同席し、学校や学習について保護者からの相談を受け、宿題のやり方などについて説明した。

交流イベント（10/21,12/22）

計2回、1回あたり3時間、参加者延べ約110名

地域の秋祭りや、週末教室の活動後に交流会を実施した。秋祭りでは、地域の自主防災会のメンバーと合同で外国籍の子どもや大人だけでなく、地域の日本人住民と共にビンゴゲームを実施した。ゲームの際には翻訳をつけ、外国籍の者が参加できるようにした。

週末教室後の交流会では、保護者にも参加を呼びかけたが、仕事の都合で保護者による参加者はなかったが、子どもたちがゲーム等をして楽しい時間を過ごすことができた。

防災教育活動（10/7、11/24-25）

計2回、1回目2時間、2回目20時間（一泊）、参加者延べ120名

防災教育を目的に、1回目には初期消火活動など、実際に火災が起きた場合の訓練を外国籍児童の多く暮らす県営緑町住宅にて実施された自治会主催の防災訓練に参加した。また、2回目には、一泊の宿泊体験として、鶴城小学校の外国籍児童と日本人児童の希望者が、地域の防災訓練に参加しながら、鶴城小学校の校庭でダンボールハウスの作成、夜間歩行訓練、避難所体験、非常食の試食、非常用トイレなどを体験した。

保護者の日本語調査と懇談会（12/10,11,12,13）

計4回、1回あたり3時間、参加者延べ12名

西野町小学校に通う外国籍児童の保護者を対象に日本語能力調査と懇談会を実施した。学校からの連絡文書や先生とのやり取りの際、どれくらい理解できているのか、問題点は何か、今後の連絡方法の提案などが保護者から出された。さらに、学校で子どもたちが直面している悩みだけでなく、進路に関する情報を強く求めていることも明らかになった。

夏休み教室参加者数（スタッフ人数）

| ひづけ<br>日付 | つるしろうがっこう<br>鶴城小学校 | すたっふ<br>(スタッフ) | にしのみちしょうがっこうなど<br>西野町小学校等 | すたっふ<br>(スタッフ) | びこう<br>備考                 |
|-----------|--------------------|----------------|---------------------------|----------------|---------------------------|
| 2007/7/23 | 12                 | 10             | 7                         | 7              |                           |
| 2007/7/24 | 19                 | 9              | 16                        | 7              |                           |
| 2007/7/25 | 21                 | 8              | 15                        | 7              |                           |
| 2007/7/26 | 23                 | 9              | 23                        | 10             |                           |
| 2007/7/27 | 19                 | 7              | 17                        | 9              | しなすいすいいたいかい<br>市内水泳大会     |
| 2007/7/30 | 6                  | 9              | 14                        | 9              | ねんせいしゅつこうひつる<br>5年生出校日(鶴) |
| 2007/7/31 | 10                 | 9              | 20                        | 9              |                           |

多文化共生社会づくり推進事業（外国人との共生を考える会）

|            |     |    |     |    |   |
|------------|-----|----|-----|----|---|
| 2007/8/1   | 7   | 10 | 14  | 7  | ねんせいしゅっこう ひ つる<br>1,6年生出校日(鶴)、<br>ねんせいこういがくしゅう つる<br>5年生校外学習(鶴) |
| 2007/8/2   | 11  | 7  | 15  | 8  | ねんせいしゅっこう ひ つる<br>3年生出校日(鶴)                                     |
| 2007/8/3   | 19  | 13 | 20  | 11 |   |
| るいけい<br>累計 | 147 | 91 | 161 | 84 |   |

\* 出校日は午前中実施された。

へいじつ ほう か ごきょうしつさんかしゃかず すたっふにんずう  
平日放課後教室参加者数(スタッフ人数)

| ひづけ<br>日付  | にしのみちしょうがっこう<br>西野町小学校 | すたっふ<br>(スタッフ) |
|------------|------------------------|----------------|
| 2007/10/4  | 17                     | 4              |
| 2007/10/11 | 19                     | 5              |
| 2007/10/18 | 20                     | 7              |
| 2007/10/25 | 21                     | 6              |
| 2007/11/1  | 20                     | 6              |
| 2007/11/8  | 14                     | 4              |
| 2007/11/15 | 18                     | 6              |
| 2007/11/22 | 17                     | 5              |
| 2007/11/29 | 15                     | 6              |
| 2007/12/6  | 16                     | 5              |
| 2007/12/13 | 16                     | 5              |
| 2008/1/17  | 15                     | 5              |
| 2008/1/24  | 15                     | 5              |
| 2008/1/31  | 15                     | 4              |
| 2008/2/7   | 17                     | 4              |
| 2008/2/14  | 17                     | 3              |
| 2008/2/21  | 19                     | 5              |
| 2008/2/28  | 20                     | 5              |
| るいけい<br>累計 | 311                    | 90             |

しゅうまつきょうしつさんかしゃず すたっふずう  
週末教室参加者数(スタッフ数)

| ひづけ<br>日付 | さんかしゃずう<br>参加者数 | すたっふ<br>(スタッフ) |
|-----------|-----------------|----------------|
| 2007/7/7  | 8               | 2              |
| 2007/7/21 | 4               | 1              |
| 2007/8/4  | 1               | 3              |

|            |    |    |
|------------|----|----|
| 2007/9/1   | 5  | 2  |
| 2007/9/15  | 8  | 2  |
| 2007/10/6  | 4  | 3  |
| 2007/10/27 | 4  | 1  |
| 2007/11/17 | 4  | 3  |
| 2007/12/1  | 6  | 3  |
| 2007/12/15 | 6  | 1  |
| 2007/12/22 | 11 | 4  |
| 2008/1/5   | 7  | 2  |
| 2008/1/19  | 3  | 2  |
| 2008/2/2   | 4  | 1  |
| 2008/2/16  | 6  | 2  |
| 累計         | 81 | 32 |

### 3 実施結果（実施の効果等、数値を入れるなど具体的に）

各小学校にて、各2時間の夏休み教室を実施し、累積参加者数は鶴城小学校で147人、西野町とその他の小学校からの参加者数は161人であった。スタッフの累積人数は鶴城小学校で91人、西野町小学校で84人であった。最終日には終了式を実施し、子どもたち全員に修了証書を渡し、大変喜ばれた。鶴城小学校では校区の社会福祉協議会委員長、西野町小学校では校長先生に修了証書を渡していただき、地域と学校に活動の成果を共有した。

子どもたちのほとんどが、事業の目的である夏休みの宿題をほとんど終わらせることができた。日誌は比較的早く終わったが、その他の宿題に、子どもたちだけでなく、スタッフ側も苦労した。特に、作文や日記など、文章を書く宿題は困難であった。

しかし、子どもたちの保護者にも宿題の内容が理解されるなど（絵日記、音読カード、ポスターなど、どう取り組んでよいかわからない保護者が多かった）、宿題そのものを仕上げるという成果だけでなく、夏休み以降の学習方法においても、子どもと保護者の両者に理解を深めることができたと思われる。

また、西尾市内で外国籍児童の教育に携わっている担当教員、学校を巡回するブラジル人加配教員、学校に常駐するブラジル人教育補助者の方々も夏休み教室のスタッフとして活動することができ、普段は関係者同士の横のつながりが残念ながら希薄であるが、10日間で交流できただけでなく、有意義な情報交換を頻繁に行うことができ、ネットワークを強化することができたと思われる。

#### 平日放課後教室

毎週木曜日に平日放課後教室を実施したことによって、まず、子どもたちが宿題を毎日取り組むことの大切さ、宿題をするには連絡帳をしっかりと書かなければいけないこと、先生の話をよく聞かなければいけないこと、そして、忘れ物をしないことが大切だということを実感することができたと思われる。宿題そのものに関しては、文章問題や、作文、音読など、今まではやり方がわからずやらなかった宿題に取り組むことができ、一度やり方を覚えると、その後は徐々に1人でやれるように

なった子どもたちがいた。

事業実施回数が増すごとに、宿題を早く終わらせる子どもが徐々に増え、スタッフが用意した計算や漢字のプリントに取り組む子どもが多くなった。時には、準備した問題プリントが全てなくなってしまふことがあるなど、学習意欲が向上した子どもたちが何人もいた。

また、放課後教室では子どもたちは宿題に取り組むだけでなく、その後にカルタ遊び、本読み、塗り絵など、普段家庭ではあまり触れることのない遊びを楽しむ時間を持つことができた。特に子どもたちにはカルタが人気で、毎回カルタで遊びたいために素早く宿題に取り組む子どももいた。事業開始当初は、カルタ遊びの際は、スタッフが読み手となっていたが、事業の後半になると、子どもが読んで読み手をやりたがるようになった。

### 週末教室

外国籍の子どもが多く暮らす泉宮緑町住宅の集会所での学習支援、大人のための日本語学習支援事業としての週末教室は、予定していた大人の参加が残念ながらなかった。教室実施場所の泉宮住宅集会所のすぐ近くに派遣会社の寮があるため、教室開催を知らせる翻訳チラシを寮に掲示し、担当者に教室の説明をし、子どもを通じて保護者に声をかけた。しかし、土曜日の午後という、たいていの人たちが働いている、または、買い物にでかける時間帯のため、教室への参加は困難だったようだ。

子どもに関しても、最近では学校のサタデープランという週末の子どもを対象にした活動に参加する子ども、活動時間が土曜日の午後という地域のサッカークラブに所属している子ども、塾に通う子どもが増えており、参加者の確保が困難な状態である。

しかし、週末教室に参加した子どもたちは週末の宿題に取り組み、また、定期的に行われるテストのために勉強をすることができた。特に、低学年の子どもたちは、少し勉強をするとその結果がテストなどに反映されやすいため、テストで良い点を取ると、そのテストを持ってくる子どもたちもいた。

具体的には、ひとりひとりの目標を定め、2年生の子は九九を、1年生の子は算数と音読を集中して取り組むことができた。スタッフも固定したメンバーで、長年の信頼関係から、子どもたちのニーズを正確に判断し、対応することができた。

### 保護者・教員との懇談会（8/9）

西尾市立鶴城小学校の和室にて、外国籍児童の保護者を対象に懇談会を実施した。懇談会のお知らせを学校を通して保護者に知らせたが、十分な参加者を得ることができなかった。平日の午後という日程設定に問題があったと思われる。しかし、市内で外国籍児童の教育に携わっている関係者が参加し、保護者の悩みや相談に答えることができ、たとえ数は少なくとも、保護者のニーズに答えることができたと思われる。

教員の参加は、外国籍の子どもを担当している教員1名のみでの参加であったため、今後は学校全体に呼びかけていく必要があると思われる。

### 交流イベント（10/21,12/22）

地域の秋祭りや、週末教室の活動後に交流会を実施し、地域の住民との交流、子ども同士の交流

ふかめる ひごる がいこくせき こ せつする すくないちいき にん こ  
を深めることができた。日頃、外国籍の子どもたちに接することの少ない地域の人たちにとって、子どもたちと共に過ごす貴重な機会となった。

ふだん おなじちいき くらす こうりつしょうがっこう かようもの ぶらじる にんがっこう かよ もの あいだ たしょう みぞ  
普段、同じ地域にクラス公立小学校に通う者とブラジル人学校に通う者との間に多少の溝があるように見受けられるが（交友関係の違い、学習内容の違い、日本語能力の違いなどのため）交流会においてゲームやお菓子を食べるなどを通して、両者が共に時間を過ごすことが可能となった。

しゅうまつきょうしつ さんか こうりつしょうがっこう かようこ ちゅうしん こうりゅうかい とき しゅうまつきょうしつ  
また、週末教室の参加は公立小学校に通う子どもが中心であるが、交流会の時には、週末教室に通う子どもたちの兄弟や親戚なども参加し、週末教室の存在について周知することができた。

### ぼうさいきょういっかつどう 防災教育活動（10/7、11/24-25）

けんえいじゅうたく ぼうさいくねれん とき こうどう おとな こ まじ  
県営住宅での防災訓練によって、いざという時にどのように行動したらよいかを大人と子どもを交えて体験することができた。また、県営住宅の自治会長さんがペルーの方で、外国人として初めての自治会長ということもあり、訓練実施以前から彼のサポートを積極的に行った。

いっぼくしゅくほくがたぼうさいくねれん がっこう ちいき れんけい がいこくせき こ ぼうしや せつきよくてき さんか  
一泊宿泊型防災訓練では、学校と地域と連携し、外国籍の子どもや保護者に積極的に参加してもらえよう、チラシを翻訳し、学校を通じて配布してもらおうなど、連携して訓練を行うことができた。

がいこくせき こ さんか たきだし めにゆー かんがえた こ  
また、外国籍の子どもたちが参加しやすいように、炊き出しのメニューを考えたが、子どもへの聞き取り調査の結果、日本人の子どもたちに人気のあるカレーライスが良いということで、結果としては通常の防災訓練時の炊き出しメニューと変わらなくなった。

しゅくはくがたくねれん ちいき こ ちいき じしゅぼうさいかい ほう くねれんちゅう かいわ  
宿泊型訓練であったため、地域の子どもたちと、そして地域の自主防災会の方と訓練中の会話や活動を通してコミュニケーションを図ることが可能となった。訓練を通して共生の会の活動についてあまり知られていない点が明らかになり、今後の活動の周知を十分に必要性について認識することができた。

さくねん ひきつづき ちいき じしゅぼうさいかい ほう れんけい かつどう じっし ねんねれんけい  
昨年に引き続き、地域の自主防災会の方との連携した活動を実施することができ、年々連携が強まってきたと思われる。

### ぼうしや にほんごちようさ こんだんかい 保護者の日本語調査と懇談会（12/10,11,12,13）

にしのみちしょうがっこう ぼうしや たいしやう こんだんかい じっし ぼうしや にほんご のうりよく  
西野町小学校の保護者を対象に日本語調査と懇談会を実施し、保護者の日本語の能力だけでなく、進学に関する関心が高いことがわかった。

にほんご のうりよく ほんごのものがかんたん にほんご かいわ かのう かいわ 詳しい話になると日本語ではコミュニケーションが不可能であった。日本語の読みに関しては、学校からの連絡文書は翻訳してあるものもあるが、全てが翻訳してあるわけでない。行事などについては翻訳文書が作成されるため理解できるが、日々の細かいこと、例えば宿題の内容や、学校では当たり前に使っている「音読」などのことばを理解していないものが多かった。保護者がわからない時子どもに聞いても、子どもが理解していないことが多く、困っているという。日本語の会話には問題がないように見える子どもたちだが、実際は親の質問に答えられないことが多いという（宿題のやり方が本人自身もわかっていない、遠足の日程などわかっていない）。西野町小学校にはブラジル人の教育補助者の方が常駐しており、通訳や翻訳の面では他の学校より恵まれた環境にあるが、保護者は依然、学校の仕組みや宿題のことで悩んでいるようであった。

つぎ がっこう れんらく かんして すべて もの ひつよう さい がっこう でんわ れんらく れんらくちよう きにゅう  
次に、学校との連絡に関しては、全ての者が、必要の際には学校へ電話で連絡したり、連絡帳へ記入するなどして、学校との連絡は取れていたことがわかった。しかし、翻訳を介して、または、日本語が

わかる家族の者が不在であったりすると、学校からの連絡を理解するまでに時間がかかる、保護者の意思を伝えることが困難であることも明らかになった。さらに、保護者自身が十分日本語を理解していないため、子どもに聞くことも多く、子どもの負担が大きいことがわかった。そのため、直接、親にポルトガル語で連絡できる通訳の存在は大きいようである。

最後に、調査時に日本語能力以外のことで様々なことを話し合うことができた。特に、子どもたちの保護者は日本に定住を予定している者、日本の学校、できれば大学まで子どもを進学させたいと願う親ばかりであった。ほとんどの親が帰国予定をたずねられても、帰国予定はないとはっきりと答えていた。帰国予定がないということから、進学には強い関心を抱いており、進学のための情報をどのように得たらよいか、大変困っていた。進学に関しては、中学生になって進路指導や説明会が行われるが、小学生の子どもを抱える親はすでに進学について悩んでいることがわかった。

#### 4 事業の特質（工夫した点を事例を挙げて具体的に）

今回の事業では、共生の会のスタッフの枠を越えて、多様な人材を確保することに努力した。結果として、学校の教員、市内で外国籍児童の教育に携わっているブラジル人教育関係者、日本語教育に携わっている者、そして、地域の保護者に参加してもらうことができた。また、事業実施場所を主に学校としたため、学校関係者との連携が以前より強化され、同時に学校の要望に対応することが可能となった。

さらに、以前から力を入れていた地域の住民組織との連携という意味では、自主防災会と共に防災訓練を実施することができ、すでに形成されたネットワークを継続して活用することができた。

参加者を募集する際の工夫として、翻訳のチラシを配布するだけでなく、それを学校で配布してもらったり、学校の行事で保護者が集まっている時に説明会を実施し、その際に参加者を募るという手法をとった。参加者を募る際は、保護者まで連絡が行き届かない、参加申し込み用紙が提出されない、という問題を以前から抱えていたため、直接に保護者に呼びかけることができる手法で、募集から申し込みまでを一度にすることができた。その際に、翻訳されたチラシの配布はもちろんのこと、通訳を交え、事業の説明をすることが重要であった。

また、スタッフの多様性について先に述べたが、スタッフを固定するという点にも工夫した。なるべく同じスタッフが、同じ子どもに接するようにし、子どもの学習レベルの把握、ニーズの把握、そして信頼関係の構築を目指し、同じスタッフに継続して参加してもらうように努めた。その結果、子どもたちが事業実施場所にくると、「先生は？」とたずね、毎週、共通の話題などを話すことを楽しみにしている姿が見られた。

他にも、学童保育との連携にも留意した。参加者の中には学童保育に通う者もあり、そうした子どもも夏休み教室や平日放課後教室に参加できるように、学童保育の担当者だけでなく、市の子ども課とも連携し、送り迎えをする、保護者の理解を得るということで、安全を確保し、参加が可能となった。

子どもたちが参加する事業を実施するにあたって、基本的に、子どもたちが参加しやすい日程や場所を選定した。週末は親の都合もあるため、平日、子どもたちが自分で通える場所、そして通える時間を選んだ。学校の授業後が一番都合よく、授業後、学校内の別の教室に移動するだけですむので、参加率も安定しただけでなく、子どもが通うための負担も少なくなりました。

しかし、事業実施日を忘れる子どももあり、その際には教室まで迎えに行く、週末教室の場合は

自宅に電話をするなど、積極的にこちらから呼びかけを継続した。

最後に、子どもの安全を第一に考え、帰宅時間を守らせる、教室の出入りの際の連絡の徹底など、事業実施開始時から徹底して行ってきた。

## 5 今後の課題

今後、夏休み教室、平日放課後教室を継続して実施していくことができるかどうかが大きな課題である。両教室は、学校の教員の参加もあったが、ほとんどが教員以外の者で運営された。そのため、学校からは「今後もこうした活動が必要だ。」という声、子どもたちからも「またやって欲しい。」という声は強く聞かれたが、実施に関しては、教員の負担等を考えると、教員以外の者が中心となって事業を実施する必要性が高いようである。そのため、県の単年度の事業である委託事業が、来年度以降、どのように継続可能かを模索している。

2つ目に、スタッフの確保が今後の大きな課題である。先に述べたように、来年度以降、どのように事業を継続していくかに際して、スタッフの定期的な確保が重要である。今回の委託事業では、平日放課後教室は週に1回の実施という、定期的に人材を確保するには不安定で時間的に少ない条件である。そうした条件では、なかなか人材を確保するのが難しい。そのため、継続して実施できるように、時間数の増加や安定した雇用のような形で事業を実施するのが望ましい。

3つ目に、子どもたちの参加は大変積極的であったが、保護者を巻き込んだ活動、または、保護者との連絡を密接にする必要性が高い。子どもたちが学習支援教室でいくら学習に励んでも、学校での忘れ物が多い、事業実施日以外の日は宿題ができれば、子どもの学習が効果的に行われることは難しい。そのためには、保護者の協力が最も重要であるため、今後は保護者を対象に宿題、持ち物等について説明会などを実施する必要がある。

4つ目に、保護者だけでなく、学校の教員をより積極的に巻き込む必要性が高い。今回は、時間のある時に教員が活動時間中に顔を出す、という関わり方であったため、もう少し定期的に、または、中心スタッフの1人として活動に参加することが重要である。

5つ目に、事業の開始が7月からであり、子どもにとっては、1学期が終了する時期である。子どもにとって、学年が新しくなる時期や、初めて学校に通うようになった4月が大変重要な時期である。そうした時期に教育支援活動を実施することができれば、持ち物や宿題に対する取り組みを早期に開始することができ、1学期を効果的に過ごすことができる。最初の大変貴重な4月からの3ヶ月間を活用できるように単年度の事業でなく、複数年で実施する必要がある。

最後に、日本での進学を希望する者が多いことが明らかになったため、進学に関して十分な情報を持っていない保護者に対しての進路説明会の実施が必要である。学習意欲を高めるためにも、そして、より効果的に学習するためにも、明確で、具体的な進路や将来について知り、考える機会が必要だと思われる。

## 6 その他参考事項

特になし